

八清親和会 自治会役員のひとり言

平成31年3月15日 No15

八清親和会 副会長 吉田祐治

今年70周年を迎える八清親和会の“70周年を迎え、次に八清親和会が目指す自治会の方向について！”を寄稿します。

“八清親和会は、今年（平成31年4月）に「創立70周年」を迎えます。”

昭和16年に、八清住宅と共に八清親和会の前身「翼町内連合会」が誕生しました。昭和23年に、「翼町内連合会」が解散し、昭和24年に新たに「八清親和会」が設立されました。そこから八清親和会の「スタートの始まり」です。時代が変わり、社会が変わり、環境が変わっても、八清親和会の自治会活動は脈々と受け継がれて、そして、今年で70周年を迎えます。

紆余屈折のなかで、長い年月をかけてようやくここまで到達しました。歴史があるが故の、マンネリ化や役員の担い手不足、会員の減少による衰退の危機などを乗り越え、一つ一つ、問題点や課題解決しながら、70周年という一つの目標に辿り着きました。これは、歴代の役員の努力、会員みなさんの理解と協力、支えがあってこそ辿り着けた目標です。そして、皆が忘れかけていた地縁自治会としての、八清親和会の精神の原点である、ご近所・お隣りさんコミュニティの「お互いさま」「隣近所の助け合い」が再びよみがえりました。（Neighbor Community）
これまで、八清親和会が歩んできた70年を言葉で表現すると、

“八清親和会がつくっているのは、地域の原風景です。”

時を重ねるほど楽しくなる。
暮らすほど好きになる。
地域にもいい歳の取り方がある。
それは、時間ではなく、親睦・ふれあいを積み重ねていくことである。
自治会の行事や活動には、いくつかのドラマがある。
地域の旧き良き歴史が残る、私たちの八清地域、
お年寄りたちの笑顔、子どもたちの元気な声、
若者たちが集い、賑やかな町内、
まるで昭和の旧き良き時代の、八清地域の中にあるような風景、
人と人とがつながってまちになる。
暮らしと暮らしがつながってまちになる。
そして、そこに住んでいるお年寄りたちの思い出の場所になっていく、
そこで育った子どもたちの故郷になっていく、
八清親和会は、人と人、人と地域、地域と地域をつなぐ役割を持っている。
そう、私たち自治会の活動は、地域が元気になる、楽しくなる、好きになる。
そして、思い出をつくり、故郷をつくる活動でもある。
人々のそばで、地域の中で、支える活動を、
これからも、八清親和会は行っていきます。

この70年を一つの辿り着いたゴールとするならば、いよいよ新たな「スタートの始まり」です。

平成31年（2019年）以降のこれからの八清親和会が目指す自治会の姿とは、

“70周年をスタートとして、新しい時代の自治会を目指そう！”

昭和、平成と変わり、そして5月には改元となり、新しい時代を迎えます。

これに合わせ、自治会も新時代を迎えます。

昔のように、地域住民全員が自治会に入っていた時代から、

みんなが同じ考えに向かうのではない、自治会のニーズが多様化する今、

八清親和会も進化しています、これからも進化します。

新しい時代の要望に応えられる新しい自治会活動へ。

70年の歴史で培った「基盤」と「経験」と住んでいる住民の「地域密着力」を

あわせ持つ強みを生かし、高齢者から若い世代のすべての会員が、

「楽しく、地域に必要とする自治会」を目指します。

だれもが気軽にふれあい、集える、ふだん着の雰囲気大切に。

一人ひとりに分かりやすく、

自治会の活動が多様化する時代こそ、

すべての活動や行事に多くの会員が参加し、集い、ふれあい、

地域が元気に楽しくなるような八清親和会になるべきだと、会員皆が考え、

その想いと考えを、70年を一つの区切りとして、

今から、新しい自治会「八清親和会」をスタートさせます。

そして、これからの人生100年時代の、時代に合った、時代に寄り添った、

新しい自治会「八清親和会」を目指します。

会員が頼りやすい、

会員が分かりやすい、

会員がワクワクするような、

地域の自治会「八清親和会」を、これからも目指します。

70年以降の八清親和会の目指す自治会を、言葉で表現するならば、このようになります。

自治会に携わらなければ、知らなかったことがある。

自治会を知ること、そこから八清親和会への応援の輪を、これからも広げていきたいと思います。

そして、ここ6年間取り組んできた目標に対する成果を総括して、さらに一段上を行く自治会を目指します。

以上